

2023年4月12日(水)  
愛知県美術館  
プレスリリース



明治時代、開国後の日本が近代国家として海外に伍していくため、人々は西洋の情報や技術を貪欲に習得し、また日本のイメージを対外的にどう示していくかという課題にも取り組みました。その結果、日本の政治経済や人々の生活が様々に変わっていくなかで、造形活動の領域でも変化が起こり、多彩な動向が生まれました。

「美術」という訳語や概念が日本に入ってきたのも明治時代のことです。この展覧会は、こうした変化や多彩な動向を、明治期の絵画や写真、彫刻、印刷物、工芸などからもう一度見直そうとするものです。

展覧会タイトルの「視覚開化」は、西洋の情報や技術が刺激となって、当時の日本の人々に新たな視覚——新たなものの見え方や見方、見せ方が生まれたのではないかと考え、明治の「文明開化」になぞらえた造語です。新発見を含む多数の作品・資料が集結する本展は、明治美術の<sup>こんこう</sup>混淆と創成の様子を見るとともに、横浜、東京、そして愛知における明治の造形活動を知る、またとない機会となるでしょう。

- 【展覧会名】 近代日本の視覚開化 明治——呼応し合う西洋と日本のイメージ
- 【会 期】 2023年4月14日（金）～5月31日（水）（41日間）
- 【会 場】 愛知県美術館（愛知芸術文化センター10階）
- 【開館時間】 10:00～18:00 金曜は20:00まで（入館は閉館の30分前まで）
- 【休 館 日】 毎週月曜日
- 【観 覧 料】 一般1,500（1,300）円  
高校・大学生1,200（1,000）円  
中学生以下無料
- ※（ ）内は前売券および20名以上の団体料金です。  
※上記料金で本展会期中に限りコレクション展もご覧になれます。  
※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳（愛護手帳）、特定医療費受給者証（指定難病）のいずれかをお持ちの方は、各券種の半額でご覧いただけます。また付き添いの方は、各種手帳（「第1種」もしくは「1級」）または特定医療費受給者証（指定難病）をお持ちの場合、いずれも1名まで各券種の半額でご覧いただけます。当日会場で各種手帳（ミライロ ID 可）または特定医療費受給者証（指定難病）をご提示ください。付き添いの方はお申し出ください。  
※学生の方は当日会場で学生証をご提示ください。
- 【アクセス】 地下鉄東山線・名城線「栄」駅／名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、  
オアシス 21 連絡通路利用徒歩3分
- 【ウェブサイト】 <https://www-art.aac.pref.aichi.jp/exhibition/000391.html>
- 【主 催】 愛知県美術館、メ〜テレ
- 【特別協力】 神奈川県立歴史博物館
- 【後 援】 明治美術学会
- 【問合せ先】 愛知県美術館 TEL 052-971-5511（代）
- 【同時開催】 愛知県美術館 2023年度第1期コレクション展

## ◆構成・主なトピックと人物

### 第一章 伝統技術と新技術

西洋から日本に入ってきた新しい技術を熱心に研究し実践する人々が、幕末から続々とあらわれました。開港地横浜では、初代五姓田芳柳（ごせだほうりゅう）ら五姓田派（ごせだは）が、西洋絵画を疑似的に模した伝統技法と本格的な西洋絵画技法を同時に実践しました。このほか、日本の伝統的な絵画技法を習得した画家たちが西洋の絵画技法に取り組んだ例や、名古屋における明治期の洋画受容、そして明治の写真など、模倣から次第に本格化していく絵画や写真の様々な実践と普及の様子をご紹介します。

五姓田派、油彩技術の習得、軍隊と美術、写真、初代及び二代五姓田芳柳、五姓田義松、山本芳翠、橋本雅邦、荒木寛畝、中丸精十郎、高橋由一、宮下欽、河野次郎、野崎華年など



初代五姓田芳柳 《西洋老婦人像》 明治初頭  
絹本着色 神奈川県立歴史博物館所蔵



二世五姓田芳柳 《初代愛知県権令井関盛良像》  
明治 20 年代頃 絹本着色 愛知県公文書館



五姓田義松 《鮭》 明治時代前期 油彩、紙  
團伊能旧蔵コレクション



宮下写真館 《双眼写真 瀬戸》 明治 11 年頃  
鶏卵紙 個人

## 第二章 学校と図画教育

西洋の技術や情報の研究は幕末から行われ、江戸幕府の洋学研究機関だった蕃書調所(ばんしょしらべしょ)では、川上冬崖や近藤正純らが手探りで洋画を研究しました。明治政府も殖産興業政策を念頭に西洋の技術の学習と利用を後押ししました。明治9年に開校した工部美術学校は日本初の官立美術教育機関で、同校彫刻科出身の寺内信一や内藤陽三、小栗令裕は愛知に足跡を残しています。こうした工部美術学校や、明治20年開校の東京美術学校など一部の美術家養成のための専門教育のほか、小学校をはじめとする普通教育での図画教育、明治の図画教科書など、明治の美術教育の諸相をご紹介します。

図画教科書、工部美術学校と愛知、東京美術学校、川上冬崖、近藤正純、小栗令裕、寺内信一、内藤陽三、下村観山、黒田清輝、久米桂一郎など



小栗令裕 《欧州婦人アリアン  
ヌ半身》 明治12年 石膏  
東京大学大学院工学系研究科  
建築学専攻



寺内信一 《裸婦像》 明治17年  
陶 とこなめ陶の森

## 第三章 印刷技術と出版

江戸時代から続く木版による印刷物は、明治前期にも盛んにつくられていました。しかし大量印刷の点で優れる銅版印刷や石版印刷が入ってきたことで、印刷の主役の座は木版から、これら西洋由来の新しい印刷技術に移ります。銅版印刷は地図など精緻な表現に用いられ、石版印刷はグラデーション表現に富み明治前期から中期にかけて印刷業界を席卷しました。文字については活版印刷が実用化され、雑誌や書籍、新聞というメディアを世間に急速に浸透させました。多種多彩な印刷技術と、出版物を通じて発信され普及していった明治期のイメージの数々をご紹介します。

地図、地誌、石版、木版、銅版、美術雑誌、美術図書、貴顕の肖像、岩橋教章、名古屋石版舎など



信陽堂 《福沢先生》 明治 24 年  
単色石版 神奈川県立歴史博物館  
所蔵 青木文庫



有山貞次郎 《東京名所案内 向島》  
明治 24 年 単色石版、手彩色 神奈  
川県立歴史博物館所蔵 青木文庫

#### 第四章 博覧会と輸出工芸

開国後、日本のイメージを広く知らしめ、技術発展や啓蒙の場となったのが、国内外で開催された博覧会でした。高い技術力に支えられた陶磁、漆器、七宝など日本の工芸は万国博覧会を通じて海外の評価を得、それに手ごたえを感じた明治政府は、外貨獲得のために輸出工芸の振興を図りました。この機運に乗り、多くの職人たちが新たな販路を求めて輸出工芸の制作に参入し、また民間の輸出産業も発展します。ここで意識されたのが、海外に向けた造形、いわゆるデザインでした。愛知や横浜で生産された輸出陶磁器や七宝、輸出工芸に応用された絵画や図案、大倉孫兵衛による輸出錦絵と森村組の製陶業との関連などから、明治期に日本から海外へ発信された造形をご覧いただくとともに、その背景にあった、陶磁器や七宝生産における愛知と横浜・東京との繋がりや、製陶業を立ち上げた森村組が生産拠点を愛知に集約する道のりをご紹介します。

万国博と内国博、図案、輸出陶磁器、寄木細工、横浜・愛知の製陶業、眞葛焼、宮川香山、川本栴吉、川本半助、七宝、帝室技芸員、森村組、大倉孫兵衛、ノリタケなど



初代宮川香山 《高浮彫牡丹ニ眠猫覚醒蓋付水指》 明治時代前期 陶 神奈川県立歴史博物館寄託 田邊哲人コレクション



《大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖》 明治 10 年代 木版多色摺、折帖 神奈川県立歴史博物館寄託



森村組 《色絵金彩薔薇文蓋付飾壺》 明治 30 年代 株式会社ノリタケカンパニーリミテド

## ◆イベント・その他

### ◇「明治」をめぐるリレートーク

#### ①『美術』のつくられかた—明治のモノづくりの分岐点

【講師】角田拓朗（神奈川県立歴史博物館主任学芸員）

【日程】4月15日（土）

#### ②「菊池容齋と『前賢故実』」

【講師】由良濯（愛知県美術館学芸員）

【日程】5月3日（水・祝）

#### ③「横浜の輸出工芸 陶磁器・漆器とその周辺」

【講師】鈴木愛乃（神奈川県立歴史博物館学芸員）

【日程】5月7日（日）

#### ④「近代愛知の視覚開化」

【講師】平瀬礼太（愛知県美術館副館長）

【日程】5月13日（土）

#### ⑤「新聞付録は面白い！—明治の印刷と美術」

【講師】菅野洋人（郡山市立美術館館長）、平瀬礼太（愛知県美術館副館長）

【日程】5月27日（土）

【会場】各回アートスペース A（愛知芸術文化センター12階）

【日時】各回 13:30-15:00

【定員】各回先着 90名

※申込不要、聴講無料。開始時刻に会場にお集まりください。

### ◇記念シンポジウム「愛知で考える明治美術」 明治美術学会 × 愛知県美術館共催（予定）

【展覧会紹介】由良濯（愛知県美術館学芸員）

【発表】中野悠（愛知県美術館学芸員）

【記念対談】木下直之（明治美術学会会長・静岡県立美術館館長）、平瀬礼太（愛知県美術館副館長）

【日時】4月23日（日）13:30-16:30

【会 場】 アートスペース A (愛知芸術文化センター12階)

【定 員】 先着 50 名

※申込不要、聴講無料。開始時刻に会場にお集まりください。

◇スライドトーク (学芸員による展示説明会)

【日 時】 4月30日(日)、5月13日(土) 各回 11:00-11:40

5月19日(金) 18:30-19:10

【会 場】 アートスペース A (愛知芸術文化センター12階)

【定 員】 各回先着 90 名

※申込不要、聴講無料。開始時刻に会場にお集まりください。

◇展覧会図録

「近代日本の視覚開化 明治——呼応し合う西洋と日本のイメージ」

【編 集】 愛知県美術館・神奈川県立歴史博物館

【発 行】 風媒社

【価 格】 2,600 円 (税込 2,860 円)

## 近代日本の視覚開化 明治——呼応し合う西洋と日本のイメージ 広報用画像申込書

### ※ご掲載にあたっての注意事項

- ・本展広報用画像の使用は、展覧会の紹介を目的としたものに限らせていただきます。  
ご使用可能期間は本展覧会終了までです。
- ・ご使用の際は下記のキャプション情報（作家名、作品名、所蔵者名等）を全てご掲載ください。
- ・画像は全て全図でご使用ください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・展覧会情報の確認のため、校正原稿を事務局宛に FAX またはメールでお送りください。
- ・掲載誌（紙）、録画 DVD 等を事務局宛に 1 部ご恵贈願います。ウェブ媒体の場合は掲載 URL をお知らせください。

- 1 初代五姓田芳柳 《西洋老婦人像》 明治初頭 絹本着色 神奈川県立歴史博物館所蔵
- 2 二世五姓田芳柳 《初代愛知県権令井関盛良像》 明治 20 年代頃 絹本着色 愛知県公文書館
- 3 五姓田義松 《鮭》 明治時代前期 油彩、紙 團伊能旧蔵コレクション
- 4 宮下写真館 《双眼写真 瀬戸》 明治 11 年頃 鶏卵紙 個人
- 5 小栗令裕 《欧州婦人アリアンヌ半身》 明治 12 年 石膏 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻
- 6 寺内信一 《裸婦像》 明治 17 年 陶 とこなめ陶の森
- 7 信陽堂 《福沢先生》 明治 24 年 単色石版 神奈川県立歴史博物館所蔵 青木文庫
- 8 有山貞次郎 《東京名所案内 向島》 明治 24 年 単色石版、手彩色 神奈川県立歴史博物館所蔵 青木文庫
- 9 初代宮川香山 《高浮彫牡丹ニ眠猫覚醒蓋付水指》 明治時代前期 陶 神奈川県立歴史博物館寄託 田邊哲人コレクション
- 10 《大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖》 明治 10 年代 木版多色摺、折帖 神奈川県立歴史博物館寄託
- 11 森村組 《色絵金彩薔薇文蓋付飾壺》 明治 30 年代 株式会社ノリタケカンパニーリミテド

媒体名： \_\_\_\_\_

ジャンル： \_\_\_\_\_

掲載・放送予定日： \_\_\_\_\_

貴社名： \_\_\_\_\_

ご担当者名： \_\_\_\_\_

E-mail： \_\_\_\_\_

所在地：〒 \_\_\_\_\_

電話： \_\_\_\_\_

### 問い合わせ先／校正原稿等の送付先

明治展実行委員会事務局

展覧会内容に関すること：展覧会担当 中野、由良

広報掲載に関すること：広報担当 宮谷

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2

TEL: 052-971-5511 (代)

FAX: 052-971-5604

E-mail: art11@aac.pref.aichi.jp